

# 第9号 稲作管理特報

平成29年10月6日  
朝 日 町  
黒東地域農業技術者協議会

## 「いざ土づくり！ 美味しい富山を届けよう！」

土壌は農業生産の基盤になります。米の品質と収量の向上のため、土づくりを継続的に実施することが重要です。

### ◆ 秋の土づくり運動実施中 11月15日まで ◆

#### ポイント1 秋耕の実施 … 5月の田のワキの改善

- ・稲わら(及び籾がら)は、すみやか(10月中)にすき込みましょう。
- ・秋耕後は、排水溝を設け、水はけを良くし、腐熟促進に努めましょう。
- ・秋の長雨で、ほ場がぬかるんで秋耕ができない場合は、まず排水溝を設置し、水はけを良くしましょう。

##### 《 秋耕後の排水溝の設置 》

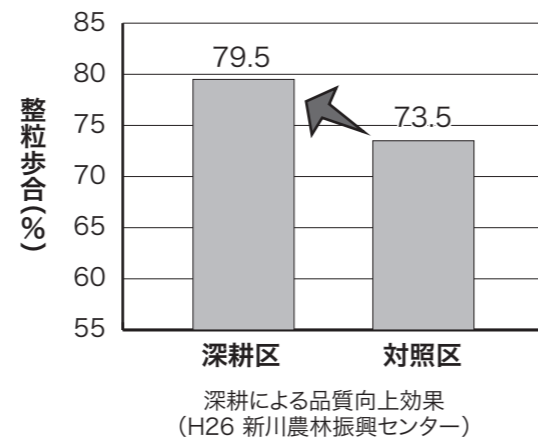
深さ20cm以上、4～5m間隔で排水溝を設置し、排水口へ連結することにより、ほ場の乾きや稲わら等の腐熟促進の効果が高まります。

★稲刈り後に石灰窒素を施用(20kg/10a)し、秋耕をすると稲わらの腐熟促進に効果的です。ただし、倒伏しやすいほ場では、次年度の基肥量を2割程度減肥してください。

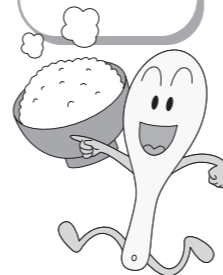
- ・秋耕と春耕の2回耕起により、作土20cmを目指しましょう。



スタブルカルチによる深耕



積極的に土づくりを行い、  
収量・品質のよい米づくりに取り組もう！

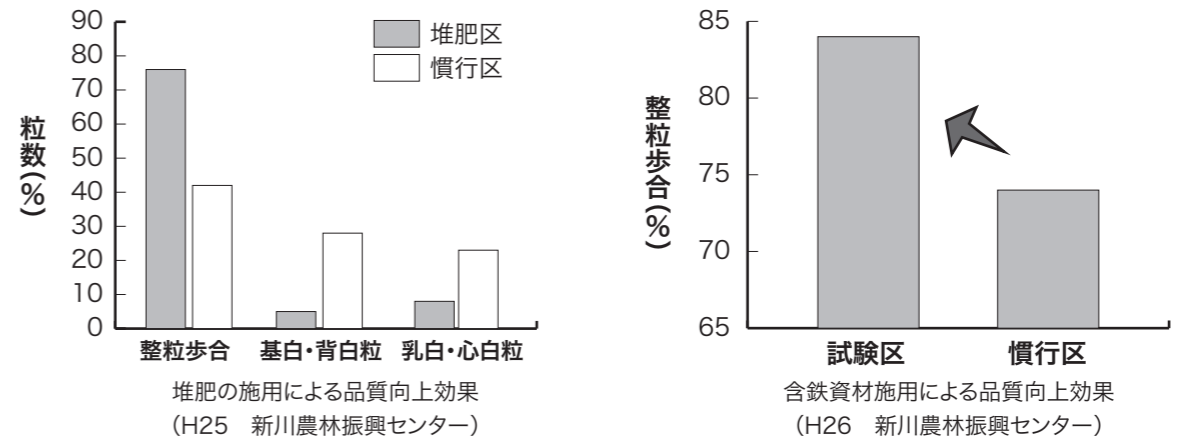


#### ポイント2 有機物の施用

- ・有機物を積極的に施用し、土壌の腐植分や保肥力を高めましょう。
- ・稲わらやもみ殻は貴重な有機物です。ほ場へ還元しましょう。
- ・堆肥や発酵鶏ふんは、近年、不足しているリン酸やカリの補給にも効果的です。  
○牛ふん堆肥(1～2t/10a)または発酵鶏ふん(秋施用120～150kg/10a)

##### 《 有機物施用の効果 》

腐植の含量が高くなると、土壌の透水性、保水性、通気性が良くなり、養分の保持力を高まるとともに、微生物の増加が促され、地力が高まります。



#### ポイント3 珪酸質資材の散布

- ・土壌中の珪酸含量は施用を中断すると急速に低下するので、継続して施用しましょう。

##### 主な珪酸質資材(10a当たり標準施用量)

珪酸石灰	・倒伏やいもち病に対し、抵抗力が増す ・土壌pHの矯正	160kg施用
シリカパンチF ※シリカロマンに鉄分が追加された資材	・倒伏やいもち病、ごま葉枯病に対し、抵抗力が増す	120kg施用
アサヒニューテツ	・根の活力の向上 ・土壌pHの矯正	160kg施用

##### 《 珪酸質資材の効果 》

pHを高め、作物の養分吸収が高まります。珪酸がイネの葉・茎に運ばれて、光合成能力を高めるとともに、割籾を軽減し、病気や倒伏に強くする働きがあります。